

神戸紅茶

創業95周年でブランドを集約

「オーガニック&フェアトレード」11月に3種発売

世界約160カ所の紅茶産

地・エリアから旬の茶葉のみを

買い付け、国内には数少ない紅

茶鑑定士が日本の軟水に併せて

ブレンドしている。これを有機

JAS認証、フェアトレード認

証フェルを取得した自社工場

製品化。茶葉の買い付けから製

造までを一貫して手がけている

点が強み。

今年11月、同社は創業95周年

を迎える。これを機に新商品や

限定ギフトの投入、SNSや直営店舗における

情報発信の強化などに努めていく。商品では、「神戸紅茶」と「K

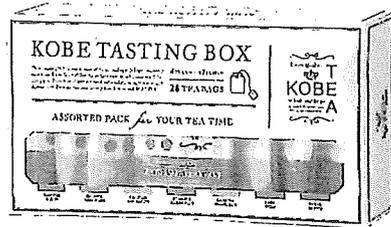
OBE TEA」の2

ブランドに集約し、ターゲットへの訴求力を



高めていく。「神戸紅茶は紅茶好き向けに本格的な味わいを提供するシリーズとしてポルドーをテーマカラーに展開。一方KOBETEAは、ライトユーザーや若年層が手に取りやすいカジュアルなシリーズとして白をテーマカラーとする。

写真は、ダージリン、スパイスチャイを11月1日「紅茶の日」に発売する。従来品の20袋から10袋へ入数を変更し、手に取りやすい価格(500円、600円)とした。「これら2つの認証をダブルで取得している紅茶商品



は少なく、SDGsの取り組みにもマッチしている。紅茶を飲むだけで社会に貢献している実感を持っていただける商品として、20・30代女性を中心に幅広い層へ提案していきたい」と(同社)。

昨秋、リニューアルしたリーフティー15種と同じクラフト基調の外袋に紅茶鑑定士のロゴを入れたパッケージで統一感を出した。なかでも「スパイスチャイ」については、電子レンジを使って手軽に本格的なチャイが楽しめるレシピをパッケージ裏面で紹介し、トライアル購入を促す。

さらに今季は「KOBETEA」ブランドの売れ筋「神戸テイスト」(7種)の販売を強化。また今後は、缶入りリーフティーのパッケージを大幅に刷新。さらに新商品として、個包装タイプのテトラパック入りアンポートを手頃な価格帯で発売する予定だ。

出典：食品産業新聞(10月24日掲載)